

仕事観からテレワークを考える

主体的仕事観と自営型テレワーク、そして
WEBサイトの多様な構築と活用の可能性

四木 信

Shin YOTSUGI

OWL 仕事図書室

OWL Library of Work

はじめに

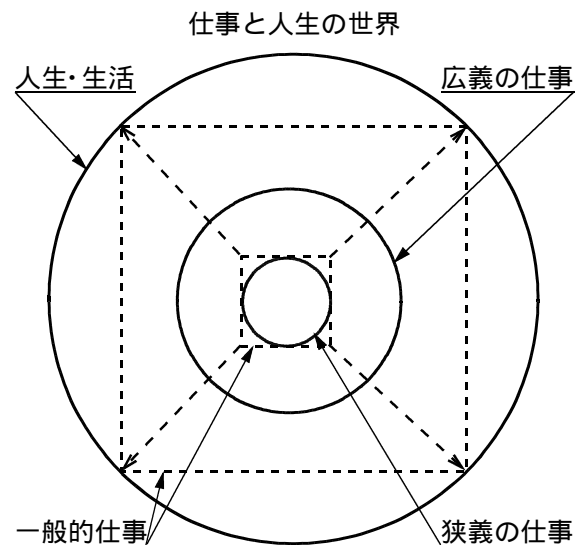
私は、仕事は自らの人生をつくる芯として、自分と社会を結ぶパイプとして、最重要なテーマであると19歳の時に思ってから以来、この35年の間「仕事観：仕事とは何か」を考えてきた者です。また、仕事観の貧弱・不在・無関心は、現代日本社会の課題であると26歳の頃から思うようになり、仕事観は私の社会的テーマとなっています。

そして仕事観をメインテーマに、OWL 仕事図書室(OWL ; Original Working Life , アウル, 主体的仕事人生)を開設(当初は大阪市内の中心部に設置していたが、今は自宅の一室を当てている)して25年、OWL 仕事研究会を月1回大阪梅田で公開開催して11年が経過しました。現在は新たに「仕事の学校(仮称)」を開設準備中です。また、これからできれば「仕事学」をまとめたいと考えています。

1. 仕事とは：「広義の仕事」と「狭義の仕事」

「広義の仕事」とは、「狭義の仕事」も含めた活動全般をいう。例えばハンナ・アレント Hannah Arendt が『人間の条件』志水速雄訳1994ちくま学芸文庫、1973中央公論社；*The Human Condition* 1958の中でいう“労働 labor” “仕事 work” “活動 action” など社会的な人間活動全般をいうと考えていただきたい。

「狭義の仕事」とは、経済を中心に置いたビジネスや、社会的役割実現としての勤務仕事など、現代の日本人が一般的に「仕事」として考えている内容をいう。アレントのいう“労働 labor” “仕事 work”であり、尾高邦雄（『尾高邦雄選集第一巻』1995夢窓庵 / 『新稿職業社会学』1953福村書店 / 『職業社会学』1941岩波書店）が「職業の三要素」（「個性の発揮」「役割の実現」「生計の維持」）で示した社会的職業活動をいうと考えていただきたい。



2. なぜ「仕事観」なのか

個人と社会をつなぐパイプ活動としての仕事は、人生(人間)をつくり、社会(文化)をつくる。良き仕事は、良き人生をつくり、良き社会をつくる。そして、良き仕事をつくるためには、良き仕事観を持つ必要がある、と私は考えています。そういう意味を込めて「仕事は志事である」と考えています。

先述の尾高邦雄(1908-1993)は『新稿職業社会学』(1953福村書店)の中で次のように書いています。

「職業は社会生活の骨組みである。社会生活の横軸は社会と個人の両極からなると考えられる。そして職業はこの両極をつなぐ通路に相当する。すなわち社会と個人、全体と個体との結節点が職業であり、そしてこの点を通じての動的相関が人間の社会的共同生活の基本構造をなしているのである。全体は職業活動を通じて刻々に個体によって実現され、個体は職業活動を通じて結局において全体の存続発展に貢献しているのである。」

人はだれしも、人生の節目節目において自らの人生について考え、人間と社会の在り方について考え

ることでしょう。逆にいうと、社会(学校・企業など様々な人間集団)をつくる意識の基盤には人間観があり、その人間観は一人ひとりの人生観によって支えられています。そして、その人生観の核心は仕事(活動)を通して形づくられていくはずで、そのように人間社会の基本構造をなす「仕事の世界」を「良き世界」につくっていく「良き仕事観」の充実が重要課題となってきたように思います。

3. 「企業倫理」より「良き仕事観」を

現実の日本の企業・役所など仕事組織の大半は、雇用・被雇用関係を基盤にした使い・使われるシゴト(仕事)の世界です。まだまだ上司・部下、就業規律など、四角張った角のあるタテ社会であり、タテマエ合理性の世界です。

そんな中で一人ひとりの働く意識は、集団主義・組織依存社会にどっぷり腰までつかり、所属組織の中の自分しか考えることができない閉鎖的シゴト(私事)世界の袋小路に入ってきた観があります。

マズローの「人間欲求の5段階成長説」に刺激されて、「人間意識の段階的成長」を大ざっぱに考えてみました。

期：全能感時代 - 全我 = 自己中心 - 子供意識

期：無力感時代 - 間我 = 自己形成 - 青年意識

期：責任感時代 - 忘我 = 公開人間 - 大人精神

これは人間成長の3段階であり、生き方の3タイプでもあります。現代の日本人は、特にタイプが多いように思います。

組織から倫理はつくれない。倫理は個人からしか生まれません。「タテマエ組織人間 + ホンネ私閉人間」から「公開人間」へ。そして責任感ある「活動(仕事)人間」へ。

これからは、期への移行を想定しながら、「良き仕事観」の充実を図っていききたいものです。

4. 自営型テレワークの可能性

テレワーク、テレラーニング、テレコミュニケーションによる、新しいライフスタイル、ワークスタイルの可能性が、個人・組織を問わず今後さまざまな分野で広がっていくことが予想されます。

ここでは主体的仕事観の充実に力点を置きながら、組織内テレワークでなく、自営型テレワーク、特に「WEBサイトの多様な構築と活用の可能性」の提案を行い、皆さんからご意見をいただきたいと希望しています。

4-1. 注文請負の自営と市場創造的自営

SOHOなど小規模自営型テレワーカーは、現在そのほとんどが注文請負のワークスタイルのようです。この受注仕事の世界は、今後もしばらくの間は増え続けると思われますが、競争がますます激しくなり、精神的時間的な大変さが増大し、淘汰されていくと予想されます。ほんの一部の特化したフリーランスを除いて、主体的仕事観の充実を図れるようなワークスタイルは期待できないと思います。

市場創造的テレワークは、情報・コミュニケーションの新しい市場基盤を創造し、今までにはなかった新たなワークスタイルをつくっていく可能性があると思います。

4-2. WEBサイトの多様な構築と活用の可能性

WEBサイト(ホームページ)構築の技術的進化は最近めざましいものがあるようです。しかし私の見るところ、コンテンツ(内容)が充実したサイトに出合えることは稀のようです。

見た目に美しく、信頼感を持てるしっかりしたデザインは大切だと思います。しかし新しいデザイン技巧に走るだけのページや、見る人の目を楽しませるだけのグラフィックのページに、WEBサイトとしてどれほどの意味があるのか、私は疑問に思います。それは印刷物や映像をWEBに乗せただけです。

WEBサイトの最大の特長は、公開性と即時性と個人性と編集性にあると思います。これらの特長を生かした多様なWEBサイトの構築と活用が、市場創造的自営型テレワーカーの課題かと私は考えています。

例えば、地域の情報・コミュニケーション媒体の主なものは、自治体広報誌、地域情報誌、電話帳などしか今まではありません。信頼できるしっかりした内容の情報を公開する多様なWEBサイトが地域ごとにできれば、その地域の人と人、人と社会を結び、多様な仕事の世界、コミュニケーション世界をつくることのできるのではないのでしょうか。

「まちの先生」情報：学ぶ人と教える人の主体的コミュニケーションの基盤整備、「まちの医者」情報：ホームドクター制度の基盤整備、「まちの住宅建築家」情報：ホームアーキテクト制度の基盤整備、その他信頼できる様々な「まちの」情報WEBサイトができれば、人と組織と地域社会の関係が今までと大きく変わっていくように思われます。